



当院における肝硬変を合併した患者の全身麻酔症例

2010年4月1日から2025年12月31日の期間に、当院で全身麻酔を受けた、肝硬変を合併する患者さん

研究協力をお願い

当科では「肝硬変を合併した患者の全身麻酔症例の検討」という研究を倫理委員会の承認並びに研究機関の長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2010年4月1日より2025年12月31日までに、日本医科大学付属病院麻酔科にて、手術を受けるために全身麻酔を受けられた患者さんのうち、肝硬変を合併している患者さんの麻酔方法や術後経過を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：当院における肝硬変を合併した患者の全身麻酔症例

研究期間：研究実施許可日～2028年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 緩和ケア科 准教授（教育担当）保利陽子

(2) 研究の意義、目的について

肝硬変を合併した患者さんの手術・全身麻酔・周術期のリスクは高く、特にChild-Pugh Cでは周術期死亡率は高いとされています。当院で全身麻酔下に手術を受けた肝硬変（Child-Pugh分類BおよびC）患者さんの診療情報を用いて、術後30日以内の合併症発生率や死亡率を明らかにし、麻酔管理および周術期リスクを明らかにすることを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2010年4月1日より2025年12月31日までに日本医科大学付属病院麻酔科にて、全身麻酔で手術を受けられた患者さんのうち、肝硬変を合併していた患者さんの臨床背景や周術期データを後方視的に解析し、肝機能の重症度と術後合併症発生との関連について検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし（本研究では、研究目的のために新たな検体を採取することはありません）。

情報：年齢、性別、基礎疾患、Child-Pugh分類、MELD-Naスコア、血圧値、肝機能指標（アルブミン、ビリルビン、PT-INRなど）、凝固系指標、出血量、輸血量、アルブミン投与量、昇圧薬使用、手術内容、麻酔方法、術後30日以内の合併症および転帰（生存・死亡、ICU滞在日数、在院日数）

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 緩和ケア科 准教授（教育担当） 保利 陽子

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24172

メールアドレス：hori84@nms.ac.jp